
はじめに

藤崎 純(東邦大学医療センター大橋病院 臨床生理機能検査部)

超音波(エコー)検査は全身のスクリーニングに用いることができるうえ、経済的かつ簡便で、ベッドサイドでも施行が可能です。また、さまざまな症状や部位、放射線被曝を避けることが望ましい女性や小児など、多彩な場面で活用することができ、日進月歩の画像診断領域においても特に重要視されてきています。

エコー検査に対する需要増加に伴い、エコー検査に従事する者に求められるエコー所見の知識・診断能力も、より広範囲・高度化してきています。さらに、時には、限られた時間のなかで緊急性の有無を含めた的確な判断が求められることもあるでしょう。広範かつ緊急性の高い症例にも対応できる知識・能力は、エコー検査の基本かつ重要な要素となってきたと考えられます。

しかし、広い領域をカバーした救急専門エコー検査の成書は少なく、多くは部位別の入門書となっています。そこで、本増刊号では、腹部の救急疾患(消化器領域、消化管領域)のみだけでなく、泌尿器疾患、婦人科疾患、循環器疾患、血管疾患、小児疾患についても広く取り上げる構成としました。

各領域におけるエキスパートの方々により、自験例を用い、典型的なエコー像を掲載したうえで、エコー所見の特徴や観察のポイント、他疾患との鑑別ポイントなどを説明していただきました。また、エコー所見のみならず、疾患の疫学的知識、病態や知っておくべき検査データ、診断の確定に必要な他のモダリティ所見など、診断に至るために必要な知識も充実させています。

手元があれば診断の一助につながる1冊を目指しました。緊急を要するエコー所見を脳裏に焼き付け、そのような所見に遭遇した際には広い範囲で緊急性の有無を判断できるように、ご活用いただければ幸いです。
